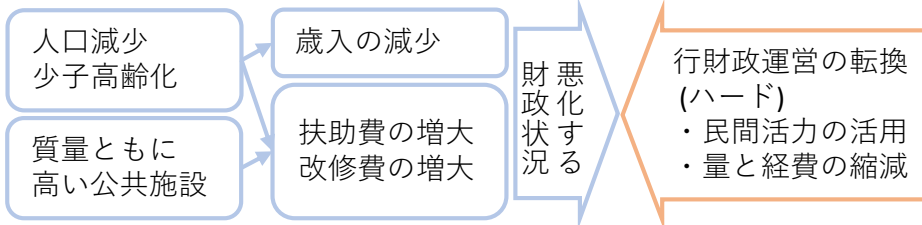


これまでの経緯と検討の経過

H25.11 行動プログラムの策定

豊ヶ丘複合施設
の方向性

廃止



豊ヶ丘複合施設
廃止の方向性

豊ヶ丘複合施設	地区市民ホール 老人福祉館	・貝取こぶし館に統合
	図書館	・本館の整備に合わせ廃止 ・図書の予約・貸出・返却機能を コミセンまたは青陵中学校に設置
	児童館	・施設にあわせ廃止 ・地域の児童館機能の確保策を検討
	学童	・近隣の小学校内に移転

→ 持続可能な市政運営のため、
施設廃止を含む行動プログラムを策定

市長懇談の開催

H26.6 陳情の採択

→ 「豊ヶ丘複合館(図書館・学童クラブ・児童館・老人福祉館・地区市民ホール)の存続を求める陳情」が市議会にて採択

存続を求める
陳情が採択

H28.11 行動プログラムの更新

市民や利用者との対話

豊ヶ丘 複合施設	大規模改修時期まで現機能を維持しつつ、市民や利用者等と対話を行いながら今後の施設の在り方について検討
-------------	--

→ 陳情採択を受け、
(各論) 各施設の取組みを一部変更
(総論) 財政課題等は変わらず

学童は保護者等の要望もあり
小学校内への移転を検討

市民や利用者との
対話し在り方を
検討することに

H29.8~H31.2 市民ミーティング(計7回)

存続の会との共催で、意見交換を行う市民ミーティングを開催
施設に必要な機能や、その意見の集約方法を検討

- ・ 検討の目的、豊ヶ丘地域の現状、豊ヶ丘複合施設の利用状況を共有
- ・ 意見集約の方法について、首都大学東京(現東京都立大学) 饗庭教授の協力のもと意見交換し、検討
- ・ 施設が残ることを明らかにという意見を受け市において「何らかの機能を維持」を決定

→ 今後の施設の在り方・機能について幅広い意見を得るため、公募でワークショップを開催することに

検討の方法や
施設と地域の情報
を共有・検討

何らかの機能を維持

学童移転

R 1.5 ~ R 1.10 市民ワークショップ(計6回)

何らかの機能を維持

今後のニーズを踏まえた検討を行うため、東京都立大饗庭研究室協力のもと地域に必要な施設の機能などを考えるワークショップを実施

現状について ・入口がバラバラで各機能のつながりがない ・使える人が限られる ・バリアフリーに配慮 ・より使いやすく	新しい機能 ・相談がつながるといい ・地域について考える場 ・誰でも集えるスペースが欲しい ・市民同士の繋がりが持てる ・地域の知の拠点
--	---

地域に必要な施設の機能を制約なしに意見を出し、検討

- 共通のロビーなどを備えた、改修案(中間報告)を作成
- ・ただし、検討課題(財政状況や運営体制など)もあり

■ 5つの検討課題 ■

①施設像(コンセプト)や財政状況などを踏まえた検討	予算の制約をせずに検討を進めてきており、必要な機能の絞り込みまで至りませんでした。個々のアイデアはほぼ出尽くしたと考えられますので、次のステップでは、求められる施設像(コンセプト)や基本的な考え方を整理しつつ、厳しい財政状況等を踏まえ、検討していく必要があります。
②関連する公共施設との総合的な連携の検討	検討1も踏まえ、豊ヶ丘複合施設では実現できない機能については、周辺の公共施設での代替可能性も重要な判断材料になります。関連する公共施設の現状についての情報共有と、それらの総合的な連携について検討する必要があります。
③コンシェルジュ(仮)の可能性の検討	仕事内容や役割、地域と行政を結ぶ職員の配置について検討する必要があります。
④運営体制	豊ヶ丘複合施設の合理的な運営の方法を検討する必要があります。
⑤政策立案を支える複合施設の可能性の検討	

R 2.1-2 オープンハウスで地域の意見を聞き取り

コロナの発生

経過報告会の開催(3回)

R 2.12 ~ 庁内的な検討

所管とともに、市民ワークショップの中間報告を確認

・各々の機能が関わり、だれもが集えるという方向は賛成 ・ただし面積やコストを小さくする工夫が必要	
地区市民ホール 老人福祉館	・会議室・集会室は夜間の空気が目立つ ・お風呂は利用者が限られる(登録で30人弱)
図書館	・本のセキュリティを考える必要がある ・2階の学習室は目が届かないので課題
児童館	・子どものセキュリティを考える必要がある ・子どものエリアは靴を脱いで使える方がよい

市民WS案(中間報告)を共有内容を確認

- それぞれの機能が関わり合い、様々な人が集える施設という方向性には賛成
- ・面積や整備・維持管理コストの検討が必要。このためには、改修だけでなく、建替えも検討の余地があるのではないかと

R4.7~ 整備方針共同検討会(計5回)

何らかの機能を維持

市民ワークショップ検討などをベースに、今までの意見を実現するため、市の考え方等も踏まえながら整備方針の検討を行う

ソフト	市民ワークショップでまとめた意見をベースに検討
ハード	改修・建替え両論で検討

市民WS等の
意見を実現するため
コスト等も踏まえ検討

整備方針共同検討会の流れ

市民ワークショップなどでいただいた意見・課題

■検討の前提事項

- ①市民ワークショップ 5つの検討課題
- ②コロナによる生活の変化
- ③検討会からの参加者意見
- ④市の基本的な考え方

□市の基本的な考え

- ①面積・コストの縮減を目指す必要がある
- ②より多くの人々が利用できる施設としたい
- ③使い続けられる持続可能な施設としたい
- ④行政だけでなく様々な主体が関わる運営体制も検討したい

□市民ワークショップ 5つの検討課題 ※**パネル1-2**

市民WS等の意見を実現するため
コスト等も踏まえ検討

第1回~

ソフト(施設の将来像・機能)を検討 ※**パネル3**
 →内容はおおむね確認

第3回~

ソフトを実現するため、ハード(施設の整備方法)を検討 ※**パネル4**
 その際に、改修案のデメリットやコスト面での課題を解決する手段として、
 建替え案も改修案と並行して検討を始める
 →改修・建替え両方の意見があり、結論は出ず

今回

R5.3-4 オープンハウスで地域の声を聞く

整備方針案への意見やリスパースのアイデアを聞き取り

ソフト：機能の大枠を決定
 ハード：整備方法の検討

共同検討会やオープンハウスの意見を踏まえ、整備方針を検討・決定

R5年度~ 所管を交えた具体的な検討

整備方針をもとに、所管も交えながら詳細な検討を行う

ソフト	機能の詳細な内容、市民との協働による運営体制などを検討
ハード	必要な設備や空間を検討

所管課も加わり
機能や施設を
具体的に検討

ソフト：機能の詳細を決定
 ハード：整備方法を決定

設計・工事 (約3年間)